

明治44年鉄道開通と共に急激な人口の膨張を見て2代目庁舎は大正6年11月北4条東1丁目に新築移転されています。

◆明治末期から大正中期の行政区概略年表

明治12年(1879)	野付牛が生顔常村を合併し、二級町村野付牛村になる
明治44年(1911)	野付牛駅開駅する
大正3年(1914)	常呂村より、鑑沸村を分離し常呂村外三ヶ村戸長役場となる
大正4年(1915)	野付牛から、武華村(留辺蘂)・置戸村が分村し二級町村が成立 野付牛は一級町村制施行となる この年、常呂村・太茶苗村・手師学村・少牛が合併して二級町村常呂村成立。この年、常呂村と鑑沸村との境界変更で鑑沸とワッカは常呂村に属することになる また、置戸村から二級町村訓子府村が分村する
大正5年(1916)	野付牛町が町制を施行 常呂村と野付牛村の境界変更で、少牛村の大部分と手師学村の一部が野付牛(現端野自治区)に編入される
大正10年(1921)	6月1日町制により武華村は留辺蘂町と改名した

◆大正中期から昭和中期の行政区概略年表

大正10年(1921)	4月1日 端野村・相内村分村
大正15年(1926)	常呂村と端野村との村境査定で登位加部落が常呂村に編入
昭和4年(1929)	相内村・端野村一級町村施行
昭和13年(1938)	留辺蘂町一級町村施行
昭和17年(1942)	市制を施行して北見市となる
昭和24年(1949)	留辺蘂町が置戸町との境界変更により、字幸岡の一部(現富岡)を編入
昭和25年(1950)	常呂村、町制施行により常呂町となる
昭和31年(1956)	道東に誇る白亜の大庁舎と呼ばれた4代目新庁舎竣功 相内村と合併

昭和4年6月、北6条東1丁目(現在の北見郵便局本局)と、北見日赤病院と道路を挟んだ角地に3代目庁舎が建てられました。

この庁舎は、昭和30年(1955年)11月まで使われ、12月からは藤中高等学校開設により移譲しました。



▲昭和初期の旧北見市役所庁舎